

## 税金クイズ王

東京都立白鷗高等学校附属中学校 1年 太田 智教

「税の作文？」中学校に入学して初めての夏休み、僕の苦手な「作文」の課題が出た。「でたでた。まいったな～いいや、後回しにしよっと…」と、案内の紙をヒョイっと机に置き、部屋を立ち去ろうとした瞬間、ふと壁に飾ってある「賞状」に目がいった。ちょうど一年前、小学校で行われた「税金について学ぶ講座」でいただいた賞状だ。

僕の住む荒川区の小学校では、荒川法人会青年部会が主宰する税金ジュニアスクールが行われる。第一部では税金についてのクイズ大会、第二部ではクラスで班ごとにタブレットを使用し、国にはどのような税金があるのか調べプレゼンを競い合う。最後に税理士会の方が丁寧に評価と講義をしてくれた。

第一部のクイズ大会の時の事だ。担任を含めたクラス全員が真剣な顔つきでスクリーンを見つめた。全問正解者は税金クイズ王の賞状がもらえる。お題は10問、○×方式、小学六年生でもきちんと答えられる内容になっている。しかしである。○×ではないある難問が一問残された。それはまさしく算数ではなく数学の問題で僕らをパニックに陥らせる。最後まで勝ち残ったのは僕と担任だ。センター（共通）試験「数Ⅰ」が得意だったと言いはる僕の担任は急に本気を出してきた。内心僕も焦り「なんだこの計算…暗算では無理だ。」と、鉛筆と紙をとり出し必死に計算した。その難問とはルートを使って概数を求める問題だ。回答した途端、主催者が真顔になった。「えっと、まいったな～。君、正解！」「ここ何年も全問正解者がいなかったから油断してたよ。この額縁、在庫がないんだよな…。」主催者の方は銀色に輝く立派な額縁と、クイズ王の賞状を手渡ししてくれた。拍手喝采だ。ちょうど公開授業できていた母を、担任は満面の笑みで褒め称えた。

あれから一年後、僕は台東区にある都立白鷗中学校に入学させていただき日々頑張っている。数学をはじめ全ての授業が本当に楽しい。どの先生方も全力投球だ。こんな風に学べるのも、根元には税金の力があると家族全員が理解し、感謝している。税のしくみを国民が完璧に理解するのは難しい。その理由の一つにややこしい数字が沢山隠されている事も考えられる。そして、しくみだけでなく、数学を知らないと不安や不満が生まれる。つまり僕たち国民も、受け身ではなく、常に学ぶ努力をしなければいけないということだ。「成人して僕が税金を納める年になっても、あの税金クイズ王の賞状はずっと壁にかけておこう。」税金ジュニアスクールの時のことを思い出しながら、今僕は、苦手な作文に向き合い、再び数学の勉強をはじめた。